

# 他動性の観点から見た現代朝鮮語の副動詞接辞 -kose (-고서): 繼起的副動詞の体系

黒島規史  
熊本学園大学

## 1. はじめに

現代朝鮮語（以下、朝鮮語と呼ぶ）には、日本語の「-テ」で表されるような繼起的意味を表す副動詞接辞に -ko、-(a/e)se、-kose がある。-ko、-(a/e)se については韓国においてもそれぞれの意味や両者の差異を論じた論考があり、特に日本では日本語話者にとって使い分けが難しい副動詞接辞ということもあり盛んに議論されてきた（内山 1999、鄭 2002、崔 2018 など）。しかし、同じく繼起的意味を表す副動詞接辞 -kose については -ko、-(a/e)se に比べて使用頻度が低いこともあってか、この副動詞接辞について論じた論考は少ない。-kose を中心とした論考は Park (2012) が確認できたのみである。-kose は使用頻度が相対的に低いものの、-ko、-(a/e)se と合わせて朝鮮語の繼起を表す副動詞接辞について体系的な理解をするうえでは重要な対象である。

-kose についてはこれまで -ko に比べて明確な先行性があると説明されることがあった（Suh 1996、Baek 2003 など）。(1) の例では (1b) のように -ko を用いると、先行というよりは単に踊りを踊るという事態と歌を歌うという事態が、時間的な順番とは関係なしに列挙されているとも解釈が可能である。一方、(1a) のように -kose を用いると、踊るという事態が終わり、それから歌を歌うという時間順的な関係が明確になるというのである。

### (1) 사람들이 {a. 춤을 추고서 / b. 춤을 추고} 노래를 부른다.

salam=tul=i {a. chwum=ul chwu-kose /

人=複=主格 踊り=対格 踊る-副動. 繼起

b. chwum=ul chwu-ko} nolay=lul pwulu-nta.

踊り=対格 踊る-副動. 繼起 歌=対格 歌う-直接. 非過去

「みんなが{a. 踊って(から)/b. 踊って}、歌を歌う。」(Suh 1996: 1253)

しかし、後に明らかにするように、-kose は必ずしも明確な先行性を表すわけではなく、このような意味の違いだけから -kose、-ko を論じても -kose の意味機能は十分に明らかにならない。

そこで本研究では -kose 節と他動性の関係に注目し、-ko との違いをより明確にすることを目的とする。そして、-kose 節の述語は他動詞と結合することがほとんどであることをはじめ、Hopper & Thompson (1980) が提唱した他動性の

特徴から、-kose 節はより他動性が高い特徴と関連することを明らかにする。

## 2. -kose の形態統語、意味的特徴

### 2.1. 形態統語的特徴

-kose 節の述語は過去接辞 -(a/e)ss- や蓋然性を表すモダリティ接辞 -keyss- との結合が許されないと指摘されている (Baek 2003: 120)。それにたいして -ko は結合に制約がない。ただし、その場合 -ko は時間的な継起関係を意味するのではなく、時間に関係なく事態を列挙する意味となる。それぞれ 2 文を 1 文にして引用する。

#### (2) 아이들은 밥을 {a. 먹고서 / b. \* 먹었고서} 잠이 들었다.

ai=tul=un      pap=ul      {a. mek-kose                      / b. \* mek-ess-kose}  
子=複=主題      ご飯=対格      食べる-副動. 継起                      食べる-過去-副動. 継起  
cam=i              tul-ess-ta.  
眠り=主格      入る-過去-直接

「子供たちはご飯を食べて、寝付いた。」(韓国・国立国語院 2012: 48)

#### (3) 우리는 노래도 {a. 부르고 / b. 불렀고} 춤도 쳤다.

wuli=nun      nolay=to      {a. pwulu-ko                      / b. pwull-ess-ko}  
1. 複=主題      歌=モ                      歌う-副動. 継起                      歌う-過去-副動. 列挙  
chwum=to      chw-ess-ta.  
踊り=モ              踊る-過去-直接

「私たちは歌も歌い、踊りも踊った。」(韓国・国立国語院 2012: 37)

本研究ではあくまで継起的な意味を表す -kose と -ko を対象とし、(3b) のような列挙を表す -ko は対象としない。

また、-kose 節とこれを包含する上位節の主語は同一でなければならないが、-ko は制約がなく、異主語も許す (Baek 2003: 120)。

-kose を -ko と -se に分析して考察する場合が多いが (Baek 2003、Kim 2012、Park 2012 など)、本研究では -kose をそれ以上分析する必要のない個別の副動詞接辞と見る。その理由は二つである。一つは -kose の遡及形である -kosye はすでに 15 世紀の文献から確認され、たとえ元々は副動詞接辞 -ko に -syel<sup>1)</sup> が付いて形成されたとしても、すでに固定化されていると考えることができるからである。もう一つは、副動詞接辞 -ko に -se の意味を足し合わせたところで -kose の意味が簡単に出てくるわけではないからである。-se 自体が現代語においては生産的でなく、この形態素自体の意味を他の副動詞接辞、例え

<sup>1)</sup> -syel (現代語では -se) は元々存在詞の is- (ある、いる) が文法化したものである。

ば **-myense** (～ながら) から取り出してきたところで、その意味は抽象的にならざるをえない。<sup>2)</sup>

## 2.2. 意味的特徴

Suh (1996) は (1) のような例を挙げ、副動詞接辞 **-kose** は基本的には先行性を表す場合に用いられると述べてつつも、**-kose** が必ずしも先行性を表さない場合もあることを指摘している。<sup>3)</sup> その根拠としては、(4)、(5) のような例を挙げている。

### (4) ? 그들은 웃고서 즐겼다.<sup>4)</sup>

?ku=tul=un wus-kose culky-ess-ta.

彼=複=主題 笑う-副動. 継起 楽しむ-過去-直接

「?彼らは笑ってから楽しんだ。」(Suh 1996: 1254)

### (5) 그이가 붉은 옷을 {a. 입고 / b. 입고서} 춤을 춘다.

kui=ka pwulk-un os=ul {a. ip-ko / b. ip-kose}

彼=主格 赤い-連体. 完状 服=対格 着る-副動. 継起 着る-副動. 継起

chwum=ul chwu-nta.

踊り=対格 踊る-直接. 非過去

「彼が赤い服を着て踊っている。」(Suh 1996: 1254)

(4) は不自然な文で、**-kose** に先行性も認められないと指摘されているが、4.2 節で詳しく述べるように、**wus-** (笑う) のような自動詞はそもそも **-kose** と結合しにくいことが関係している可能性もある。(5) のような例においてはどちらの副動詞接辞も先行性を表すという解釈、表さないという解釈の両方が可能だと指摘されている。先行性を表さない解釈とは、つまり「服を着た状態で」という様態的な解釈であると考えられる。Suh (1996: 1255) では (4)、(5) のような例においては **-kose** に先行性が認められないものの、**-kose** と結合する動詞の性質によって特に先行性を表したい場合には (1) のように **-kose** が用いられると述べている。

<sup>2)</sup> **-kose** の例の中には **kulikose** のような例も見られる。接続詞 **kuliko** (そして) は **kuli-** に副動詞接辞 **-ko** が付いていると分析し、この **-ko** を **-kose** に置き換えるようにして用いられたとも考えることができる一方で、単純に **kuliko** に **-se** を結合させているとも考えることもできる。後者の考え方を採用するなら **-se** という形態素を認めてもよいだろうが、**kulikose** 自体が規範的な言い方でもないため、判断が難しい。本研究では **kulikose** も接続詞と見なし、対象から除外しておく。

<sup>3)</sup> Suh (1996) では「先行性」ではなく“순차성 [順次性]”という用語を用いている。

<sup>4)</sup> Suh (1996: 34) では「?’を「文法的に正常な文とは認められないが意味が、ある程度通じる」文の標識として、「(?)」を「自然な文としては受け入れられないが、人や環境によってはある程度受け入れられる可能性がある」文の標識として用いている。

李姫子・李鍾禧 (2010: 74-75) は文法辞典の記述であるが、-kose の意味を詳しく分類している。ここでは -kose の意味を -고 나서; -ko nase (～てから) という迂言的形式への置き換えの可否から二つに大別して示している。ここでも -ko nase (～てから) という先行性を明示する形式への置き換えの可否を基準にしていることから、-kose の意味の特徴として先行性があると読み取ることができる。李姫子・李鍾禧 (2010: 74-75) から用例を抜粋して引用する。

1. ‘-고 나서’ に置き換えられないもの

1. 前の行動の結果として、後の行動を進めることを表す。

(6) 누구를 믿고서 여기에 왔소?

nwukwu=lul mit-kose yeki=ey w-ass-so?

誰=対格 信じる-副動. 継起 ここ=与位格 来る-過去-疑問

「誰を当てにしておいてここに来たのですか？」

2. 前の事柄が方法として機能し、その状態のもとで後の行動を進めることを表す。‘～して (-아 가지고)’ の意味。

(7) 문을 열고서 보아라.

mwun=ul yel-kose po-ala.

ドア=対格 開ける-副動. 継起 見る-命令

「ドアを開けて、見てみなさい。」

(8) 팔짱을 끼고서 진수가 말했다.

phalccang=ul kki-kose cinswu=ka malhay-ss-ta.

腕組み=対格 組む-副動. 継起 固名=主格 言う-過去-直接

「腕組みしてチンスが言った。」

3. 前の事柄が後の事柄と対立関係にあることを表す。‘～したのに (-았는데도)’ の意味。

(9) 그는 이 사실을 알고서 모른다고 한다.

ku=nun i sasil=ul al-kose molu-nta-ko

彼=主題 この 事実=対格 知る-副動. 逆接 知らない-直接. 引用-補標

ha-nta.

言う-直接. 非過去

「彼はこの事実を知っているにもかかわらず知らないと言う。」

2. ‘-고 나서’ に置き換えられるもの

1. 前の行動が終わって、後の行動が進められることを表す。‘～してから (-고 나서)’、‘～した後で (-ㄴ 다음에)’ の意味。



(10) 목욕을 하고서 저녁을 먹었다.

mokyok=ul ha-kose cenyek=ul mek-ess-ta.

入浴=対格 する-副動. 繼起 夕食=対格 食べる-過去-直接

「風呂に入ってから夕食を食べた。」

2. 前の事柄が後の事柄の根拠であることを表す。‘～するので (-기 때문에)’ の意味。

(11) 그 약을 먹고서 나았다.

ku yak=ul mek-kose na-ass-tanta.

その 薬=対格 食べる-副動. 繼起 治る-過去-感嘆

「その薬を飲んで治ったんだよ。」

(李姫子・李鍾禧 2010: 74-75)

李姫子・李鍾禧 (2010: 74-75) では「参考」として 1-1 の (6)、1-2 の (7)、(8) のような意味の -kose は「‘-ko’ の強調語」であると述べている。実際に (6) から (8) の例の -kose は -ko に置き換えることができ、それは 2-1 の (10)、2-2 の (11) についても当てはまる。-ko に置き換え不可能なのは 1-3 の (9) のみである。よって、李姫子・李鍾禧 (2010: 74-75) の記述を見ても、-kose と -ko の違いについては 1-3 の (9) を除いてははっきりしない。

時間順の意味を表す -kose と -ko の例について、その置き換えの可否のみを論じていては、両者の違いはわからない。そこで本研究では -kose 節の他動性に着目し、-ko 節と比べ -kose 節はより他動性の高い特徴と関連があることを述べる。合わせて、このように他動性に着目することで、-ko と置き換えが不可能な 1-3 の (9) のような例についても、なぜ -kose でそのような意味が表されるのかを説明できることを示す。

### 3. 資料と調査方法

コーパスから副動詞接辞 -kose を含む例を抽出し、それを帰納的に分析して考察を行った。用例を選定した結果、最終的に対象となる -kose を含む例は 356 例得られた。

コーパスは“21 세기 세종계획 최종 성과물”(21 世紀世宗計画最終成果物)を用い、現代朝鮮語を対象とするため 1990 年代以降の作品に限定した。研究対象である副動詞接辞 -kose は話しことばより書きことばにおいてより多く用いられるため、小説から用例を抽出した。検索の対象となる作品は全部で 161 作品、約 800 万語節<sup>5)</sup>である。-kose の後に焦点／脱焦点助詞が続くことが

<sup>5)</sup> 語節とは朝鮮語の分かち書きの単位に相当し、語（＋付属要素）から成る。日本語の文節と類似している。

あるが、そのような例は **-kose** 単独とはまた異なる意味を表すため対象としない。<sup>6)</sup> **-kose** を含む用例を抽出するにあたっては、次のような 3 段階のステップを経てコーパスの作品、用例を選定した。

第 1 段階：75 作品 **-kose** 992 例

↓ (**-kose** が極端に多く現れた作品を除外)

第 2 段階：69 作品 **-kose** 448 例

↓ (**-kose** の例を均質にするために限定)

第 3 段階：62 作品 **-kose** 356 例

まず第 1 段階として、**-kose** を含む例を検索した結果、**-kose** が 1 回でも用いられたのは 75 作品で、**-kose** は全部で 992 例抽出された。ただし、**-kose** の使用には作品により極端な偏りが見られた。最も多く用いられた作品では 176 例であり、この段階での 1 作品あたりの **-kose** の使用頻度が 13.2 例なのに対して 10 倍以上の頻度であった。さらに、同じ動詞に複数回 **-kose** を使用するなど、使用傾向にも偏りがあった。他の作品についても極端に多く **-kose** を用いる作品は、**-kose** と結合した述語にも偏りが少なからず見られた。本研究ではどのような動詞が **-kose** と結合して現れやすいかをより偏りなく把握するために、1 作品に 60 例以上 **-kose** が現れる 6 作品を対象から除外することにした。

第 2 段階として、上記 6 作品を除いた 69 作品から、448 例が残った。69 作品のなかで最も **-kose** が多く用いられた作品は 37 例であり、1 作品あたりの平均は 6.5 例である。この 448 例からさらに、次のような **-kose** の例を除外した。

- (a) **-kose** 節のみで文が完結している例や、**mal=i-** (～のだ) が続き **-kose** 節の後になんらの述語もない例
- (b) 接続詞相当の **kule-kose** (そうする-副動. 継起) と **kulikose** の例
- (c) **-kose** と結合している述語に、さらに補助動詞や迂言的形式が結合している例
- (d) 直接引用に続き、補文標識と考えられる **ha-kose** の例
- (e) 助詞相当の例

(a) から (e) の内訳を表 1 に示す。

<sup>6)</sup> **-kose** には **=(n)un** (～は)、**=to** (～も)、**=(i)ya** (～こそ) などの焦点／脱焦点助詞が後続する。李姫子・李鍾禧 (2010: 74-75) は (9) のような例の場合 **-kose** に **=to** が、(10) のような例の場合 **-kose** に **=(i)ya** が付いた形でも用いられるということを記述している。**-kose** に **=(n)un** が後続した **-kose=nun** の意味については黒島 (2022) で詳しく論じている。

表 1. 考察対象から除外した -kose の例

除外例	頻度
(a) -kose のみで完結する例	34
mal=i- (～のだ) が続く例	10
(b) kule-kose 接続詞相当の例	3
kuli-kose 接続詞相当の例	2
(c) 補助動詞と結合した例	29
迂言的形式等と結合した例	7
(d) 補文標識の例	8
(e) 助詞相当の例	1
計	94

448 例から除外したのは 92 例であるが、表 1 において合計頻度は 94 になっている。これは (a) かつ (c) である例、つまり補助動詞と結合したうえで -kose で文が完結している例が 2 例含まれているためである。

(a) を除いたのは、-kose 節の意味が、上位節との関係において時間的に先行しているのか、同時的なのかといったことが把握できないからである。(b) を除いたのは kule- (そうする) という代動詞はどの動詞の代わりとしても用いることができ、他動性の観点から -kose を見るのに不向きだからであることと、文頭において接続副詞として機能していたとしたら、他の接続副詞と同様、kule- 以外の用言と結合したときとはまた異なる統語的制約がある可能性を考慮してのことである。kuli-kose についてはすでに脚注 2) で言及した。(c) を除いたのは、-kose の述語に補助動詞や迂言的形式がさらに接続している場合、接続した要素の影響で -kose が選択された可能性を排除できないからである。このような例を除外したものの、否定を含む例は除外していない。これは後述するように否定は他動性とも関わる問題であるためである。ただし、述語が否定形になることで副動詞接辞の選択にも影響があるだろうことは考慮のうえである。(d) は次の (12) のような例である。

(12) …내가 먹을것을 가져오마, 하고서 잠깐 나간 사이에…

…nayka mek-ul kes=ul kacy-e o-ma,

1. 単:主格 食べる-連体. 非現実 もの=対格 持つ-副動 来る-約束

ha-kose camkkan naka-n sai=ey…

言う-副動. 継起 ちょっとの間 出る-連体. 完状 間=与位格

「…わたしが食べるものを持って来よう、と言ってちょっと出て行っていた間に…」 [BRE00295]

この (12) における ‘ha-kose’ は hako (機能動詞 ha- (する、言う) と副動詞接辞 -ko に由来する) のように補文標識と見ることも、ha- が「言う」という意味を残し、この動詞に副動詞接辞 -kose が付いていると考えることもできる。この用法での ‘ha-kose’ は全部で 8 例であったが、全て同一作品に現れる例であった。本研究ではこのことから、ひとまずこの作品における補文標識 hako のヴァリエントと考え、(12) のような例を除外しておく。<sup>7)</sup>(e) は述語として機能していないと考えられるためである。

第 3 段階として、最終的には 62 作品から -kose を含む例は 356 例得ることができた。1 作品あたりの頻度は 5.7 例である。

このようにして選定された -kose と比較するために同じ作品を対象に -ko についても 356 例、-kose の場合と同様にコーパスから用例を抽出した。-ko の用例は作想的に選び出したのではなく、テキストエディタのランダム並べ替え機能を用いて例を並べ替え、上から 356 例を抽出した。用例を抽出する際は、(a) から (e) と同じ条件に加え、-ko には種々の機能があるため、-ko が副詞的な機能を持たない以下の場合には除外している。つまり、例 (3) で挙げた列挙用法と、以下の (f) から (h) の場合である。

(f) 複合動詞の前部要素の場合 (例: mek-ko+sal- 「生活する」)

(g) 補文標識の場合 (終止形-ko 「～と」)

(h) 副詞の場合 (例: tay+noh-ko 「面と向かって躊躇なく」)

#### 4. 他動性から見た -kose : -ko との比較をとおして

他動性の観点から -kose 節と -ko 節を比べると、-kose 節のほうがより他動性の高い現象と関連があることがわかる。本節では 4.1 で Hopper & Thompson (1980) の他動性の 10 の意味的特徴を紹介したうえで、4.2 以降この他動性の意味的特徴に沿って、-kose 節と -ko 節を考察していく。

##### 4.1. 他動性 (transitivity)

Hopper & Thompson (1980) は他動性の意味特徴として、次の A から J を挙げている。日本語訳は角田 (2007: 4) に従う。

---

<sup>7)</sup> 同様の問題があることは、すでに脚注 2) でも指摘している。

表 2. 他動性の 10 の意味的特徴 Hopper & Thompson (1980)

	高い	低い
A. Participants (参加者)	2 人以上： 動作者と対象	1 人
B. Kinesis (動作様態、動き)	動作	非動作
C. Aspect (アスペクト)	動作限界あり	動作限界なし
D. Punctuality (瞬間性)	瞬間	非瞬間
E. Volitionality (意図性、意志性)	意図的	非意図的
F. Affirmation (肯定)	肯定	否定
G. Mode (現実性)	現実	非現実
H. Agency (動作能力、動作主性)	高い	低い
I. Affectedness of O (被動作性、 影響性、受影性、対象への影響、 動作が対象に及ぶ度合い)	全体的に影響	部分的に影響
J. Individuation of O (対象の 個別化、対象の個体化、個性性)	高い	低い

他動性は否定や目的語を含めた節の表す事態と関連があるため、研究対象である副動詞接辞 *-kose* と *-ko* もそれぞれ節のレベルを考察対象とする。

Hopper & Thompson (1980) も述べるように、これら 10 個の他動性の意味的特徴はそれぞれ関連しあっているが、各他動性の意味的特徴ごとに、*-kose*、*-ko* と結合する動詞について考察していく。ただし、関連がないと考えられる項目については対象から外しておく。まず、“Mode (現実性)” は継起節の表す意味とは関係がないと考えられるため最初から除外しておく。次に、

“Individuation of O (対象の個別化、対象の個体化、個性性)” は目的語の特定性などに関わる項目であるが、朝鮮語の文法体系内ではこれに関連する事象が考えられないため除外する。最後に、“Affectedness of O (被動作性、影響性、受影性、対象への影響、動作が対象に及ぶ度合い)” に関して、結論から言うと今回の調査では関連が見いだせなかった。*-kose* と *-ko* が同じ、被動作性が大きい動詞と結合している例は見つけることができたものの、両者にどのような違いがあるかはわからなかった。(13)、(14) ではそれぞれ *-kose* が同じ *hel-* (壊す) という被動作性が大きい動詞と結合している。



(13) 도로 쪽에 난 담과 광을 헐고서 약국을 개업했을 때、...

tolo ccok=ey na-n tam=kwa kwang=ul hel-kose  
道路 ほう=与位格 出る-連体. 完状 垣根=共格 倉=対格 壊す-副動. 継起  
yakkwuk=ul kayephay-ss-ul ttay、...  
薬局=対格 開業する-過去-連体. 非現実 とき

「道路のほうにあった垣根と倉を壊して、薬局を開業したとき…」

[BRE00090]

(14) 제 친구가 그 농가를 헐고 작은 미술관을 지었거든요.

cey chinkwu=ka ku nongka=lul hel-ko cak-un  
1. 単: 属格 友達=主格 その 農家=対格 壊す-副動. 継起 小さい-連体. 完状  
miswulkwan=ul ci-ess-ketun=yo.  
美術館=対格 建てる-過去-説明=丁寧

「わたしの友達があの農家を壊して小さな美術を建てたんですよ。」

[5BE01009]

例えば (13)、(14) のように被動作性が大きい同一の動詞について -kose と -ko のどちらとより多く結合して現れるか調査できれば本研究の主張をサポートできると考えられるが、今回の調査では用例数が足りず考察できなかった。

次節から、ここで言及した三つの意味的特徴を除き、-kose 節を -ko 節と比べながら考察していく。まず述語の特徴と関係するものから考察し、4.2 で Participants (参加者)、4.3 で Kinesis (動作様態、動き)、4.4 で Affirmation (肯定) を扱う。続いて 4.5 で Aspect (アスペクト) と Punctuality (瞬間性)、4.6 で Volitionality (意図性、意志性) と Agency (動作能力、動作主性) を検討する。

#### 4.2. Participants (参加者)

参加者が 2 つか 1 つか、つまり -kose と結合する動詞が他動詞か自動詞かという観点から考察すると、-kose と結合するのはほとんどが他動詞であるということがわかる。<sup>8)</sup> また、-kose と -ko を比べると、どちらも他動詞と結合する割合が高いものの、-kose のほうがより他動詞と結びつく割合が高いということがわかる。Kim (2011) が指摘しているように、-ko は同じく継起的意味を表す -(a/e)se に比べると他動詞と結合する傾向がはっきりしている。朝鮮語における継起的副動詞と、他動性の関係については 5 節でまとめて論じる。

-kose、-ko と結合した動詞のうち、4 例以上現れたものを表 3 と表 4 に挙げ

<sup>8)</sup> Park (2008: 41) によると、15 世紀の文献では -kose の遡及形 -kosye は他動詞と結合した例しか発見されなかったという。

る。3 例以上現れたものまで含めると煩雑になるため、ここでは割愛する。表 3 において、‘\*’ を付けた tal-（つるす）は作品による偏りが大きく、8 例中 6 例が同一作品からの例であった。

表 3. -kose と結合した動詞

順位	動詞	頻度
1	tul-（持つ）	14
2	po-（見る） an-（抱く）	12
4	tal-（つるす）* al-（知る）	8
6	tut-（聞く） cap-（つかむ）	7
8	ip-（着る） cwi-（握る）	6
10	kam-（[目を]つむる）	5
11	neh-（入れる） malha-（言う） mit-（信じる） i-（[頭に]載せる） tha-（乗る）	4

表 4. -ko と結合した動詞

順位	動詞	頻度
1	po-（見る）	18
2	teyli-（連れる） tul-（持つ）	10
4	noh-（置く）	9
5	kkul-（引きずる）	7
6	tha-（乗る）	6
7	kaci-/kac-（持つ） twu-（置く） tut-（聞く） pat-（もらう） yel-（開く）	5
12	ka-（行く） kkuthnay-（終える） mek-（食べる） al-（知る） yel-（開ける）	4

いくつかの動詞については、-kose と -ko に共通して多く現れていた。それぞれ tul-（持つ）と po-（見る）についてはともに多く現れており、al-（知る）、tut-（聞く）も共通して多かった。-ko に関して、teyli-（連れる）、kkul-（引きずる）、kaci-/kac-（持つ）はほぼ移動動詞が後続する例である。

表 3 を見ると、-kose と結合している動詞は、malha-（言う）、を除いて全て他動詞であることがわかる。表 4 に挙げた -ko の場合は、ka-（行く）以外全て他動詞である。これらの表の比較からだけではわからないが、全体的な傾向を見ると、-kose のほうがより他動詞と結合する傾向が高いことがわかる。

内山 (1999: 32) が指摘するように、自動詞であっても否定形であれば原因、理由を表さない場合、-ko と結合する。-ko より副動詞接辞 -(a/e)se と結合しやすい自動詞であっても否定形の場合は -ko と結合するのであれば、他動詞、自動詞との結合のしやすさを考える際には否定形を差し引いて考える必要がある。-kose の場合、否定形述語の例を除いた 349 例中 19 例 (5.4%) が自動詞と結合し、-ko の場合、否定形述語の例を除いた 319 例中 40 例 (12.5%) が自動詞

と結合していた。

すでに述べたように **-kose** が自動詞と結合した例としては **malha-**（言う）が最も多かった。**malha-**（言う）以外にも **ha-**（言う）が3例現れ、発話動詞の例が目立った以外は特に動詞に偏りはなかった。**malha-**（言う）の例を (15) に、発話動詞以外の自動詞と結合した例を (16) に挙げる。

(15) 사령관은 잠깐 실례하겠다고 말하고서 방을 나갔다.

salyengkwan=un camkkan sillyeyha-keyss-ta-ko

司令官=主題 少しの間 失礼する-意志-直接. 引用-補標

malha-kose pang=ul naka-ss-ta.

言う-副動. 継起 部屋=対格 出る-過去-直接

「司令官はちょっと失礼すると言ってから部屋を出た。」[5BE02008]

(16) 영호는 집에 도착하고서 제일 먼저 현철이를 찾아 갔으나...

yengho=nun cip=ey tochakha-kose ceyil mence

固名=主題 家=与位格 着く-副動. 継起 一番 先に

hyencheli=lul chac-a ka-ss-una...

固名=対格 訪ねる-副動 行く-過去-副動. 逆接

「ヨンホは家に着いて真っ先にヒョンチョルを訪ねて行ったが…」

[2CE00001]

次は **-ko** が自動詞と結合した例で、(17) は同一主語、(18) は異主語である。

(17) 최근에 귀의하고 세례명도 받긴 받았대.<sup>9)</sup>

choykun=ey kwiuyha-ko seilyeymyeng=to pat-ki=n

最近=与位格 帰依する-副動. 継起 洗礼名=モ もらう-名詞化=主題

pat-ass-ta-tay.

もらう-過去-直接. 引用-報告

「最近帰依して、洗礼名ももらうことはもらったらしいぞ。」[2BEXXX10]

<sup>9)</sup> 原文ママである。正しくは“받았다데”であると思われる。グロスと日本語訳は“받았다데”であるものとして添えることとする。

(18) 그가 먼저 등을 보이며 나가고 그녀는 커피를 한 잔 더 시켜 마셨다.

ku=ka mence tung=ul poi-mye naka-ko kunye=nun  
 彼=主格 まず 背=対格 見せる-副動. 同時 出ていく-副動. 継起 彼女=主題  
 khephi=lul han can te sikhy-e masy-ess-ta.  
 コーヒー=対格 ひとつ 杯 さらに たのむ-副動. 継起 飲む-過去-直接

「彼がまず背を見せて出ていき、彼女はコーヒーをもう 1 杯たのんで飲んだ。」 [CE000031]

-ko と結合して現れた自動詞としては、表 4 に示した ka- (行く) の 4 例以外に yelli- (開く)、ca- (寝る)、mangseli- (ためらう) が 3 例ずつと、比較的多く現れていた。ただし、mangseli- (ためらう) の場合は否定形 mangseli-ci anh-ko (ためらわずに) の例のみである。

#### 4.3. Kinesis (動作様態、動き)

動作様態、動きの観点、言い換えれば動作動詞か状態動詞かという観点から見ると、-kose、-ko とともに状態動詞とも結合するものの、-kose は心理動詞との結合において、-ko には置き換えることのできない意味を表すことがある。

-kose、-ko はともに動作動詞と結合することのほうが多いが、状態動詞の例も見られる。状態動詞には様々含まれうるが、ここでは po- 「見る」などの知覚を表す動詞と、sayngkakha- 「考える」などの外部から観察不可能な心理的活動を表す動詞を含めた。前節と同様の理由で否定形述語の例を除いたうえで、-kose が状態動詞と結合した例は 349 例中 49 例 (14.0%)、-ko は 319 例中 48 例 (15.0%) 得られた。-kose のほうがやや割合は高かったものの、この結果をもって -kose は状態動詞と結合しにくいと言うことはできないだろう。(19)、(20) にそれぞれ -kose と -ko が状態動詞と結合した例を挙げる。

(19) 형우는 편지를 주려다 참고서 뻔한 대답을 했다.

hyengwu=nun phincan=ul cwu-lye-ta cham-kose  
 固名=主題 面積=対格 与える-意志-副動. 途中 我慢する-副動. 継起  
 ppenha-n taytap=ul hay-ss-ta.  
 ありきたりだ-連体. 完状 答え=対格 する-過去-直接

「ヒョンウは一言言ってみようと思ったが、我慢してありきたりな答えをした。」 [BRE00091]

(20) 난 형님만 믿고 내려가겠습니다.

na=n hyeng-nim=man mit-ko nayly-e ka-keyss-supnita.  
 1. 単=主題 兄-尊敬=ダケ 信じる-副動. 継起 下る-副動 行く-意志-直接. 丁寧  
 「わたしは兄さんだけを信じて行きます。」 [BRE00091]

状態動詞のなかでも特に al- (知る) との結合は比較的多く見られ、表 3、表 4 に挙げたように、-kose は 8 例、-ko は 4 例 al- と結合して現れていた。

(21) 따뜻함이란 상대방을 충분히 알고서 배려하는 데서 생기는 것이므로,

...

ttattusha-m=ilan sangtaypang=ul chwungpwunhi al-kose  
 温かい-名詞化=トハ 相手=対格 充分に 知る-副動. 継起  
 paylyeha-nun tey=se sayngki-nun kes=i-mulo, ...  
 配慮する-連体. 未完現 ところ=奪格 生じる-連体. 未完現 もの=繫辞-副動. 理由  
 「思いやりとは、相手を充分に知り、心を配るところから生じるものなので…」 [5BE02011]

(22) 너 여기 있다는 거 알고 왔으니까 문 여는 게 좋아.

ne yeki iss-ta-nun ke al-ko  
 2. 単 ここ いる-直接. 引用-連体. 未完現 こと 知る-副動. 継起  
 w-ass-unikka mwun ye-nun key coh-a.  
 来る-過去-副動. 理由 ドア 開ける-連体. 未完現 こと:主格 よい-直接. 非丁寧  
 「おまえがここにいるのはわかったうえで来てるんだから、ドアを開けたほうがいいぞ。」 [2CE00018]

このような継起的意味を表す場合は -kose と -ko の違いがはっきりしないが、-kose は例 (9) で引用した例のように、心理動詞と結合することで逆接的な「～なのに」という意味を表すことがある。この意味においては -kose を -ko 単独では置き換えることができない。

(23) …기왕에 그런 사실을 알고서 모른 채하고 있을 수는 없는 일 아니겠어.

… kiwang=ey kule-n sasil=ul al-kose molu-n  
 既往=与位格 そうだ-連体. 完状 事実=対格 知る-副動. 継起 知らない-連体. 完状  
 chey=ha-ko iss-ul swu=nun eps-nun il  
 ふり=する-副動 進行-非現実 すべ=主題 ない-連体. 未完現 こと  
 ani-keyss-e.  
 否繫-蓋然-疑問. 非丁寧

「すでにその事実を知っているのに知らないふりをしているわけにはいかないだろう。」 [CE000027]



(24) … 내 나라 지지와 역사를 모르고서 <제갈량전>과 <비사맥전>을 천만 번이나 읽은들 현금(現今) 비참한 지경을 면하겠소?

nay nala cici=wa yeksa=lul molu-kose

1. 単: 属格 国 地誌=共格 歴史=対格 知らない-副動. 継起

<ceykallyangcen>=kwa <pisamaykcen>=ul chenman pen=inā ilk-untul

固名=共格 固名=対格 千万 回=モ 読む-副動. 譲歩

hyenkum pichamha-n cikyeng=ul myenha-keyss-so?

現今 悲惨だ-連体. 完状 状況=対格 免れる-蓋然-疑問

「自分の国の地誌と歴史を知らないのに、『諸葛亮伝』と『ビスマルク伝』を一千万回も読んだとて、今の悲惨な状況は免れないだろう。」

[2BEXXX13]

(23)、(24) のように心理動詞と結合することで -kose が逆接的意味を表すのは、これが「しっくりこない組み合わせ (infelicitous combination)」(Malchukov 2019) であるからだと考えられる。

Malchukov (2019) は文法的標識がしっくりこない組み合わせの場合、これを回避するには、一方を排除するか、一方の意味を再解釈する方法があると述べている。意味が再解釈される場合の一例として、Malchukov (2019: 4) はロシア語における完了体の現在形（完了は限界付けられた事態で、現在は発話時にまさに起きている事態である）という相容れない組み合わせが、通常未来時として解釈される例を挙げている。<sup>10)</sup>

(25) a. On idët.

he go.IPFV.PRS.3SG

‘He goes.’

b. On pri-dët.

he PFV-go.PRS.3SG

‘He will come.’

(Malchukov 2019: 4)

Malchukov (2019) はさらに、受動という通常は他動詞に典型的な範疇が自動詞に適応された場合の意味の転換についても述べている。(26) では自動詞と再帰／受動を表す形態素の組み合わせによって、モーダルな意味への転換が見られる。

<sup>10)</sup> 例 (25)、(26) のグロスは以下のとおり：

DAT: dative、IPFV: imperfective、PASS: passive、PFV: perfective、PRS: present、SG: singular

- (26) Mne ne spit-sja.  
 me.DAT not sleep.PRS.SG-PASS  
 ‘I cannot sleep.’ (Malchukov 2019: 6)

例 (9)、(23) で見たように、al- (知る) が -kose との結合において逆接的な意味を表すようになるのも、他動性の高い意味特徴と関連がある -kose 節の述語が、他動性の低い心理動詞と結合したことによるのではないかと考えることができる。この現象は 4.5 で述べる否定との組み合わせによっても観察される。

このように状態動詞のなかでも al- (知る)、molu- (知らない) と結合することで逆接の意味を表す現象は、他の副動詞接辞 -myense においても見られる。-myense は典型的には atelic な動作動詞と結びつき、-myense 節と上位節の出来事が同時に起こる「～ながら」という意味を表す。しかし、-kose の (23)、(24) の例と同じように、-myense も al- (知る)、molu- (知らない) と結びつくことで逆接の意味を表す。

- (27) 가짜 줄 알면서 사다니요.

kacca=n cwul al-myense sa-tani=yo.  
 偽物(=繫辞)=連体. 完状 こと 知る-副動. 同時 買う-感嘆=丁寧  
 「偽物だと知っていながら、買うなんて。」(鄭 2005: 47)

- (28) 뭐가, 왜 좋은 지도 모르면서 좋다고만 했다.

mwe=ka, way coh-unci=to molu-myense coh-ta-ko=man  
 なに=主格 なぜ よい-間疑=モ 知らない-副動. 同時 よい-直接. 引用-補標=ダケ  
 hay-ss-ta.  
 言う-過去-直接  
 「なにが、なぜよいのかも知らないのに、よいとだけ言った。」  
 (鄭 2005: 47)

-myense が逆接的な意味を表す条件は他にもある。特に否定形述語と結びついたときがそうだが、これも -kose と共通した特徴である。否定形述語との結合に関しては次節で扱う。

#### 4.4. Affirmation (肯定)

肯定／否定の観点から -kose を考察すると、すでに述べているように、-kose は -ko に比べ他動性の低い否定形述語と結合しにくい。

-kose、-ko が否定形述語と結合した割合から見ると、-kose は 356 例中 7 例 (2.0%) であったのにたいし、-ko は 356 例中 37 例 (10.4%) と、-ko のほうが多かった。否定形には不可能形 mos、-ci mosha- を含めている。(29) は -kose の、

(30) は -ko の述語がそれぞれ否定と結びついた例である。

(29) … 그녀들은 내게는 신경도 기울이지 않고서 담배를 피기 시작했다.

… kunye=tul=un    naykey=nun    sinkyeng=to kiwuli-ci    anh-kose  
彼女=複=主題    1. 単: 与位格=主題    神経=モ    傾ける-名詞化 否定-副動. 継起  
tampay=lul    phi-ki    sicakhay-ss-ta.  
タバコ=対格    吸う-名詞化    はじめる-過去-直接  
「彼女たちは、わたしのことは気にもかけずタバコを吸いはじめた。」 [3BE00001]

(30) 나는 대꾸하지 않고 잔에 남아 있던 소주를 마셨다.

na=nun    taykkwuha-ci    anh-ko    can=ey  
1. 単=主題    返事する-名詞化    否定-副動. 継起    コップ=与位格  
nam-a    iss-ten    socwu=lul    masy-ess-ta.  
残る-副動    結状-連体. 未完過    焼酎=対格    飲む-過去-直接  
「わたしは返事をしないでコップに残っていた焼酎を飲んだ。」  
[BRE00077]

否定形述語と結びつく頻度とは別に、-kose と -ko にはもう一つ違いがある。それは -kose は否定形述語と結びつくとき、逆接的意味を表すことがある点である。

(31) 헌팅도 안하고서 그 말 안 듣는 판따라부대를 끌고 가려는 건 아니겠지?

henthing=to an    ha-kose    ku    mal    an    tut-nun  
ナンパ=モ    否定    する-副動. 継起    その    言葉    否定    聞く-連体. 未完現  
ttanttala+pwutay=lul    kkul-ko    ka-lye-nun    ke=n  
芸能人+部隊=対格    引く-副動. 継起    行く-意志-連体. 未完現    こと=主題  
ani-keyss-ci?  
否繋-蓋然-確言  
「ナンパもしないくせに、あの言うこと聞かない芸能人軍団を引き連れて行こうとしてるんじゃないよな？」 [BRE00077]

-kose が逆接的意味を表す以外に、-kose 節の述語が否定のコピュラ ani- の場合、条件的な意味（～でなかったら）となる。このように継起的な副動詞接辞が条件を表す場合については、黒島 (2020: 154) でも指摘している。

- (32) 노동자의 대의와 자기 야심 앞에서 부끄러운 선택을 한 적이 없는  
우리가 아니고서 누가 감히 자기 인생 앞에서 당당할 수 있습니까.

notongca=uy tayuy=wa caki yasim aph=eyse pwukkulew-un  
 労働者=属格 大義=共格 自分 野心 前=位格 恥ずかしい-連体. 完状  
 senthayk=ul ha-n cek=i eps-nun wuli=ka  
 選択=対格 する-連体. 完状 とき=主格 ない-連体. 未完現 1. 複=主格  
 ani-kose nwu=ka kamhi caki insayng aph=eyse  
 否繋-副動. 継起 誰=主格 大胆にも 自分 人生 前=位格  
 tangtangha-l swu iss-supnikka.  
 堂々とする-連体. 非現実 すべ ある-疑問. 丁寧

「労働者の大義と自らの野心の前において恥ずべき選択をしたことのない我々でなければ、一体誰が自らの人生の前で堂々とできますか。」

[BRE00312]

(31) のような -kose の述語が否定形である例が逆接的な意味を表す例は、-kose が状態動詞のなかでも心理動詞の al- (知る) と結合し、逆接的な意味を表す例と同じように説明できると考えられる。つまり、本節ですでに述べたように、-kose は -ko に比べて否定形の述語と結合しにくいという傾向を持つ。状態動詞と結合しにくい -kose が状態動詞と結合した際に、その「しっくりこない組み合わせ」(Malchukov 2019) ゆえに再解釈され逆接的な意味を表すようになったのと同じように、否定形述語と結合しにくい -kose が否定形述語と結合した際に、やはり再解釈され逆接的な意味を表すようになるというわけである。(32) に挙げた ani- (~でない) の例も同様に否定形であるうえに状態用言であることにより再解釈された結果、条件的な意味を表すようになったと考えることができる。

前節ではまた、状態動詞、特に al- (知る) と molu- (知らない) が -kose と結合したときに逆接の意味を表すことがあり、このことは副動詞接辞 -myense と共通する特徴だと述べた。否定形との結合においても同じことが当てはまる。つまり、-kose と同様に -myense も否定形との結合によって逆接の意味を表すのである。

- (33) 그이는 몸도 제대로 가누지 못하면서 그 술을 깡그리 비웠어요.

kui=nun mom=to ceytaylo kanwu-ci mosha-myense  
 彼=主題 体=モ ろくに 支える-名詞化 不可能-副動. 同時  
 ku swul=ul kkangkuli piw-ess-e=yo.  
 その 酒=対格 残らず 空ける-過去-直接=丁寧

「彼は、体もろくに支えられないくせに、その酒をすっかりからっぽにしたのよ。」(鄭 2005: 47)

(34) 별것도 아니면서 대단한 체 하는 집이었지!

pyelkes=to      ani-myense      taytanha-n      chey      ha-nun

たいしたもの=モ 否繫-副動. 同時 大変だ-連体. 完状 ふり      する-連体. 未完現

cip=i-ess-ci!

家=繫辞-過去-確言

「何ごとでもないのに大変なふりをする家だったね。」(鄭 2005: 47)

前節の例も含め、このような共通点から直ちに -kose と -myense の -se を形態素として取り出せるわけではないが、注目すべき現象である。ただし、-myense は al- (知る)、molu- (知らない)、否定形述語と結合すると通常逆接の意味を表すものとして解釈されるが、-kose はすでに見たように、必ずしも逆接の意味を表すわけではない場合もある点は異なっている。

#### 4.5. Aspect (アスペクト)、Punctuality (瞬間性)

-kose 節の事態が先行を表すか、事態としては先行性があるものの、その結果が残っているなかで上位節の事態が起こるかという観点で考察すると、-kose は先行研究で指摘されているほど先行性を表す例が多くないことがわかる。

本研究では、アスペクトと瞬間性に関して、-kose 節の事態が上位節の事態よりも先に終了し、先行の意味を表すのか、終了したもののその結果が残るなかで上位節の事態が起こるのか、あるいは上位節の事態と同時的に起こるのかという観点で考察を行った。すでに Suh (1996) を引用しながら述べたように、-kose は -ko との対比において先行性を明示する場合に用いられると説明されることが多かった。しかし、実際に用例を検討してみると、むしろ -kose 節の事態が先行を表している例の割合は少ないくらいであった。

-kose 節と -ko 節の意味を検討するに際しては、-ko の意味用法を研究した鄭 (1996) の意味分類を参考にした。鄭 (1996) では -ko の表す意味を (i) 先行、(ii) 原因・理由、(iii) 様態、(iv) 同時、(v) 並列の五つに分類している。本研究では (ii) 原因・理由も基本的に時間的な関係としては先行と同じと考えられるため、先行としてまとめる。(v) の並列は本稿で言う列挙の用法なので対象とはしていない。

-kose が先行、様態、同時を表す例を以下に挙げる。先行の場合は -kose 節の事態が終わったあとに主節の事態が起こる。様態も先行性はあるが、事態が終了したあともその結果（ここでは「赤ちゃんを抱いた」状態）が残ったうえで主節の事態が起こる。同時の場合は -kose 節と主節の事態が同時に起こっていると考えられる例である。同時の場合には、(37) のような動作動詞の例も、mit- (信じる) のような心理動詞の例も含まれている。



(35) 말을 내뱉고서 나는 흘끔 여자의 표정을 살폈다.

mal=ul naypayth-kose na=nun hulkkum yeca=uy

言葉=対格 吐き出す-副動. 継起 1. 単=主題 ちらりと 女=属格

phyoceng=ul salphy-ess-ta.

表情=対格 うかがう-過去-直接

「言葉を吐き出してから、わたしはちらりと女の表情をうかがった。」 [CE000071] 【先行】

(36) 꽃을 받아드는 대신 나는 그 아이를 품에 안고서 그 얼굴을 한참 동안 바라보았다.

kkoch=ul patatu-nun taysin na=nun ku ai=lul

花=対格 受け取る-連体. 未完現 代わり 1. 単=主題 その 子=対格

phwum=ey an-kose ku elkwul=ul hancham tongan

懷=与位格 抱く-副動. 継起 その 顔=対格 しばらく 間

palapo-ass-ta.

眺める-過去-直接

「花を受け取る代わりに、わたしはその子を胸に抱き、その顔をしばらくの間眺めた。」 [5BE99001] 【様態】

(37) 사내는 유모차를 끌고서 급히 뒤돌아간다.

sanay=nun yumocha=lul kkul-kose kuphi twitol-a

男=主題 乳母車=対格 引く-副動. 継起 急いで 後戻りする-副動

ka-nta.

行く-直接. 非過去

「男は乳母車を引いて急いで後戻りして行く。」 [BRE00294] 【同時】

なお、否定形の意味はまた肯定形とはやや異なる面があるため、否定形と、前節で扱った逆接の意味を表す場合を除いている。そのうえで -kose と -ko が表す意味の割合を示すと、以下の表5のようになる。

表5. -kose と -ko の意味

	-kose	-ko
先行	42.3% (145例)	52.4% (167例)
様態	49.9% (171例)	20.7% (66例)
同時	7.9% (27例)	27.0% (86例)
合計	100.1% (343例)	100.1% (319例)

表5を見るとわかるとおり、-kose は -ko と比べると先行の例はむしろ少ない

くらいである。すでに4.1の表3で示したとおり、-koseと結合する動詞はan-（抱く）、cap-（つかむ）、cwi-（握る）など主体のほうに結果が残るタイプが多く、そのこととも関連していると考えることができる。よって、今回の研究から、-koseは -koに比べて先行性を明示するというよりも同時性は積極的に表さないと説明するほうが実情に即している。

#### 4.6. Agency（動作能力、動作主性）、Volitionality（意図性、意志性）

動作能力、動作主性の観点から見ると、-ko節の主語は無情物も現れるのにたいし、-koseの主語には通常无情物は現れないという傾向がある。さらに、意図性、意志性の観点から見ると -koseは -koに比べて非意図的な行為を表す場合に用いられにくいという特徴がある。

動作能力、動作主性の観点、つまり -kose節、-ko節の主語が有情物で自らの意志で動作できるかという観点から考察を行った。-kose節の主語が無情物の例は、356例中4例（1.1%）のみであったのにたいし、-ko節の主語が無情物の例は356例中17例（4.8%）現れた。まず -koの例を挙げる。(38)が他動詞の例、(39)が自動詞で異主語の例である。

(38) 바람이 다시 쌓여 있는 눈을 휩쓸고 지나가며 안개를 피웠다.

palam=i tasi ssahy-e iss-nun nwun=ul hwipssul-ko  
 風=主格 再び 積もる-副動 結状-連体. 未完現 雪=対格 さらに-副動. 継起  
 cinaka-mye ankay=lul phiw-ess-ta.  
 過ぎて行く-副動. 同時 かすみ=対格 起こす-過去-直接

「風が再び積もっている雪をさらっていき、かすみを舞い上がらせた。」

[BRE00088]

(39) 얼마 뒤, 밖에서 문이 열리고 누군가가 들어오는 소리가 들렸다.

elma twi, pakk=eyse mwun=i yelli-ko nwukwunka=ka  
 いくらか あと 外=奪格 ドア=主格 開く-副動. 継起 誰か=主格  
 tuleo-nun soli=ka tully-ess-ta.  
 入ってくる-連体. 未完現 音=主格 聞こえる-過去-直接

「しばらくして、外からドアが開き誰かが入ってくる音が聞こえた。」

[5BE02008]

-ko節の主語は無情物の例もいくつか見られるのにたいし、-kose節の主語が無情物の例は少ない。(40)が他動詞、(41)が自動詞の例である。

- (40) 빗기에 젖어 있는 땅은 생기 있는 붉은 빛을 띠고서 바야흐로 봄의  
생명을 탄생시킬 준비를 하고 있는 듯이 보였다.

piski=ey    cec-e    iss-nun    ttang=un sayngki iss-nun  
雨水=与位格 濡れる-副動 結状-連体. 未完現 地=主題 生氣 ある-連体. 未完現  
pwulk-un    pich=ul tti-kose    payahulo pom=uy sayngmyeng=ul  
赤い-連体. 完状 光=対格 帯びる-副動. 繼起 まさに 春=属格 生命=対格  
thansayng=sikhi-l    cwunpi=lul ha-ko    iss-nun    tusi  
誕生=させる-連体. 非現実 準備=対格 する-副動 進行-連体. 未完現 ように  
poy-ess-ta.  
見える-過去-直接

「雨水に濡れている大地は生気のこもった赤い光を帯び、まさに春の生命を誕生させる準備をしているように見えた。」 [BRE00088]

- (41) 동이 트고서 조금 지난 시각에 그는 아래 위 그 블루진에 오리털  
잠바를 입고 밖으로 나왔다.

tong=i    thu-kose    cokum    cina-n    sikak=ey    ku-nun  
東=主格 明ける-副動. 繼起 少し 過ぎる-連体. 完状 時刻=与位格 彼=主題  
alay wi ku    pullwucin=ey    oli+thel    campa=lul ip-ko  
下 上 その ブルージーンズ=与位格 アヒル+毛 ジャンパー 着る-副動. 繼起  
pakk=ulo    naw-ass-ta.  
外=沿格 出る-過去-直接

「夜が明けてから少し経った時刻に、彼は上下あのブルーピリオドにダウンジャンパーを着て外へ出た。」 [BEXX0013]

先行研究では -kose 節の主語と上位節の主語は同一でなければならないと指摘されていた。(41) の -kose 節の主語は ‘tong’ (東) であり、上位節の述語は cina- (過ぎる) だが主語は明らかでない。上位節の主語が「時間」のような名詞であるとすれば異主語の例となるが、-kose 節も自然現象を表すので典型的な異主語の例とも言い難い面がある。この点についてはさらに調査が必要である。

動作能力、動作主性は意図性、意志性とも関わりがある。自らの意志で動作を行えない場合、当然そこには意図性、意志性は見いだせない。この意図性、意志性の度合いは -ko と -kose の使い分けにも反映されるようである。次の例は作例で、-ko 節、-kose 節の事態が非意図的な行為を表している。非意図的な行為であることを明示するために、副詞 calmos (誤って、うっかり) を副詞節述語の前に置いている。続く主節述語は (42) が自動詞、(43) が他動詞の例である。

- (42) 바닥에 떨어져 있던 아기 장난감을 잘못 {a. 밟고 / b. ?? 밟고서} 넘어졌다.

patak=ey ttelecy-e iss-ten aki cangnankam=ul calmos  
 床=与位格 落ちる-副動 結状-連体. 未完過 子供 おもちゃ=対格 うっかり

{a. palp-ko / b. ?? palp-kose} nemecy-ess-ta.

踏む-副動. 繼起 踏む-副動. 繼起 転ぶ-過去-直接

「床に落ちていた子供のおもちゃをうっかり踏んで転んだ。」

- (43) 버튼을 잘못 {a. 누르고 / b. \* 누르고서} 데이터를 삭제해 버렸다.

pethun=ul calmos {a. nwulu-ko / b. \* nwulu-kose}

ボタン=対格 誤って 押す-副動. 繼起 押す-副動. 繼起

teyithe=lul sakceyhay pely-ess-ta.

データ=対格 削除する:副動 完遂-過去-直接

「ボタンを間違って押して、データを削除してしまった。」

どちらの例も -ko は自然だと判断された反面、-kose は (42b) の場合かなり不自然、(43b) の場合は容認不可だと判断された。<sup>11)</sup> 両例の -kose の自然さは、主節の事態がより自身のコントロール可能な事態かにより左右されている可能性がある。

#### 4.7. 本節のまとめ

これまで本節では -kose 節と -ko 節と、Hopper & Thompson (1980) が挙げた他動性の 10 の意味特徴のうち、検討可能な 7 つの意味特徴との関連を考察してきた。本節の結果を表 6 にまとめる。見やすさのため割合は小数点第一位を四捨五入して示す。

表 6. 他動性の観点から見た -kose と -ko

	関連		-kose	-ko
自動詞／他動詞	○	自動詞	5%	13%
動作動詞／状態動詞	△	状態動詞	14%	15%
肯定／否定	○	否定述語	2%	10%
アスペクト、瞬間性	△	様態	50%	21%
		同時	8%	27%
動作主性	○	無情物主語	1%	5%
意図性	○	非意図的事態	不自然	自然

<sup>11)</sup> 1980 年代ソウル生まれの朝鮮語母語話者の男性 1 名に判断をお願いした。

動作動詞／状態動詞の別にかんして、-kose と -ko ではそれほど状態動詞と結合した割合に差があったわけではなかったが、al-（知る）などの心理動詞との「しっくりこない組み合わせ」において逆接的意味を表す点を考慮して、関連を‘△’とした。アスペクト、瞬間性にかんしては、-kose に明らかな先行性が認められたわけではなかったが、同時はあまり表さないという意味で関連を‘△’とした。すでに考察対象から除外することを明記しておいた現実性や対象の個別化、被動作性は -kose と -ko 節の違いには関連がないと考えられるが、今後調査を進めていけば被動作性についてはなんらかの差異が見つかるかもしれない。

## 5. 朝鮮語の継起的意味を表す副動詞接辞

前節では副動詞接辞 -kose と -ko を他動性の観点から比較し、-kose 節は -ko 節より他動性の意味特徴と関連があるということを述べた。-kose、-ko に継起的意味を表すもう一つの副動詞接辞 -(a/e)se を加えると、朝鮮語の継起的副動詞接辞がさらに体系的に記述できる。

Kim (2011) がコーパス調査の結果により指摘しているように、-ko は他動詞と、-(a/e)se は自動詞と結合する頻度が多い。Kim (2011: 62) によれば同一主語かつ時間順的な意味を表す文において -ko と結合した動詞は上位 20 位まで全て他動詞であり、-(a/e)se と結合した動詞は上位 20 位のうち 16 個が自動詞であったという。本研究では異主語の例を含めているが、-ko にかんしては表 4 に示した結果とほぼ同じである。黒島 (2020) では、「二項述語階層」(角田 1991)<sup>12)</sup> を援用し、再帰的な動詞を除いては、他動性の高い他動詞ほど -ko と結びつく割合が高く、他動性の低い他動詞ほど -(a/e)se と結びつく割合が高いことを指摘している。例えば、対象に直接影響を与え、対象が変化を被るような動詞 kku-（消す）の場合、-ko、-(a/e)se と結合して現れる割合は 99:1 であるが、動作の最中には対象が存在せず、影響を与えようのない動詞 chac-（探す、見つける）の場合、それぞれの割合は 17:83 である。

-(a/e)se にかんする先行研究の結果と、本研究の結果を合わせて考えると、-kose 節と -ko 節の述語は他動詞と結合しやすく、-(a/e)se 節はその逆に自動詞と結合しやすいということがわかる。さらに、-kose 節と -ko 節を比べると -kose 節はより他動性の高い意味的特徴と関連すると言えることが言える。他動性の観点から見た、朝鮮語の継起的副動詞の特徴をまとめると以下のようなる。

<sup>12)</sup> 角田 (1991) は他動性にかんして Hopper & Thompson (1980) の意味的特徴のうちでも被動作性を重視し、他動性の高い「直接影響」から低い「能力」まで他動性の階層を提示している。



表 7. 他動性の観点から整理した朝鮮語の継起的副動詞接辞

他動詞を愛好する	-kose (-ko より他動性の高い意味特徴と関連する)
	-ko
自動詞を愛好する	-(a/e)se (他動性の低い動詞とも結合する)

## 6. さいごに

本研究では朝鮮語の継起的副動詞接辞 -kose を、類似した意味を持つ -ko と比較しながら考察し、他動性の観点から -kose 節は -ko 節よりも他動性の高い意味的特徴と関連があることを明らかにした。-ko と比較したときの -kose の著しい特徴としては、基本的に他動詞と結合し、否定形述語と結びつきにくく、有情物主語が意図的な事態を表すということができる。さらに、自動詞と結合することの多い継起的副動詞接辞 -(a/e)se を含め、朝鮮語の継起的副動詞を他動性の観点から整理した。

以上のようなことを明らかにしたものの、まだ -kose と -ko の置き換えが可能な例については、究極的になぜ -kose が選択されるのかという理由は明らかにできていない。今後は副動詞接辞を含む文を 1 文のみ対象として考察するのではなく、広くテキストのレベルで考察する必要があるかもしれない。全ては今後の課題である。

## 《本稿で用いた略号》

引用	引用形	補標	補文標識
蓋然	蓋然性	未完過	未完了過去
間疑	間接疑問	未完現	未完了現在
完状	完了状態	連体	連体形接辞
結状	結果状態	1	1 人称
固名	固有名詞	2	2 人称
単	単数	-	接辞境界
直接	直接法	=	接語境界
否繫	否定の繫辞	+	複合語境界
複	複数	:	形態素境界非表示
副動	副動詞接辞		

## 《参考文献》

朝鮮語で書かれたもの

- 김건희 [Kim Keon-hee] (2012) ‘연결 어미 ‘-고서, -아서/어서, -(으)면서’에 나타나는 ‘서’의 의미기능’, “國語學” 65: 109-155.
- 김동수 [Kim, Dong-soo] (2011) “순서 표현 연결어미 ‘-고’ 와 ‘-어서’ 연구”. 경희대학교 석사학위논문.
- 박용찬 [Park, Yong-chan] (2008) “중세국어 연결어미와 보조사의 통합형”. 경기도: 태학사.
- 박호관 [Park, Ho-gwan] (2012) ‘융합형 연결어미 ‘-고서’의 의미 기능 분석’, “우리말 글” 56: 89-115.
- 백낙천 [Baek, Nak-chen] (2003) “국어의 통합형 접속어미”. 서울: 도서출판 月印.
- 서정수 [Suh, Cheong-soo] (1996) “국어문법” 수정증보판. 서울: 한양대학교출판원.

日本語で書かれたもの

- 李姫子・李鍾禧 [イ・ヒジャ、イ・ジョンヒ] (2010) 『韓国語文法 語尾・助詞辞典』五十嵐孔一、申悠琳訳. 東京: スリーエーネットワーク.
- 内山政春 (1999) 「現代朝鮮語の接続形 -어서と -고について」『朝鮮學報』173: 19-52.
- 韓国・国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』東京: アルク.
- 黒島規史 (2020) 『定形性の観点から見た現代朝鮮語の副詞節』東京外国語大学博士学位論文.
- 黒島規史 (2022) 「現代朝鮮語の「副動詞＋主題助詞」: 日本語のテハとの対照」『朝鮮語研究 9』91-120.
- 崔チョンア (2018) [チェ・チョンア] 「韓国語の「-어서」・「-고」形節の意味類型と統語構造——日本語のテ形節との対応関係に基づいて——」『朝鮮學報』248: 1-42.
- 鄭鉉淑 [チョン・ヒョンスク] (1996) 「現代朝鮮語接続形 -고について——その意味・用法をめぐって——」『朝鮮学会』161: 1-93.
- 鄭玄淑 [チョン・ヒョンスク] (2002) 「I-고, III-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性——アスペクト形式による用言分類を通して——」『朝鮮学会』180: 1-51.
- 鄭玄淑 [チョン・ヒョンスク] (2005) 「現代朝鮮語の II-면서について」『韓国語学年報』1: 43-72.
- 角田太作 (1991; 2009) 『世界の言語と日本語』改訂版. 東京: くろしお出版.
- 角田太作 (2007) 「他動性の研究の概略」角田三枝・佐々木冠・塩谷亨 (編) 『他動性の通言語的研究』3-11. 東京: くろしお出版.

英語で書かれたもの

- Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56 (2): 251-299.
- Malchukov, Andrej L. (2019) Interaction of verbal categories in a typological perspective. 『言語研究』156: 1-24.

## 타동성의 관점에서 본 현대 한국어의 부동사어미 ‘-고서’

구로시마 노리후미  
구마모토학원대학

본 연구는 계기[繼起]적인 시간 관계를 나타내는 부동사어미 ‘-고서’의 특징을 이와 유사한 통사, 의미적 특성을 가진 ‘-고’와 비교함으로써 밝히는 것을 목적으로 한다. 한국어의 계기적 부동사어미에는 ‘-고’, ‘-(아/어)서’, ‘-고서’가 있다. ‘-고’와 ‘-(아/어)서’에 관한 연구가 많은 가운데 ‘-고서’에 관한 연구는 매우 적으며, 비슷한 의미를 가진 ‘-고’와의 차이도 확실하지 않다. ‘-고서’는 ‘-고’에 비해 뚜렷한 순차성이 있다고 설명되는 일이 많았는데 ‘-고서’가 꼭 계기적인 의미만을 나타내는 것도 아니기 때문에 의미적으로 접근해서는 두 부동사어미의 차이를 밝히기가 어렵다. 본 연구에서 타동성(transitivity)의 관점에서 고찰함으로써 ‘-고서’와 ‘-고’의 차이를 논의하였다. Hopper & Thompson(1980)이 제시한 타동성의 의미 자질에 의거하여 고찰한 결과, 다음과 같은 사실이 밝혀졌다. (i) ‘-고서’는 ‘-고’에 비해 타동사와 결합하는 경향이 더 강하며, (ii) ‘-고서’의 술어는 부정형으로 나타나는 일이 적으며, (iii) ‘-고서’는 보통 유정물 주어가 의도적인 행위를 나타내는 문장에서 쓰인다는 것이다. 본 연구는 이러한 사실을 바탕으로 계기적 관계를 나타내는 부동사어미를 체계적으로 정리했다. ‘-고서’, ‘-고’는 둘 다 타동사와 결합하는 경향이 강한데 ‘-고서’는 보다 타동성이 높은 현상과 관련이 깊다. 한편으로 ‘-(아/어)서’는 자동사와 결합하는 경향이 강하며 타동성이 비교적 낮은 타동사와도 결합한다.